

第 6 章	社会(歴史)	名前:	日 付	No.01
	鎌倉			

[問題 1]

次の年表を見て、各問いに答えよ。

- (1) 年表中のア～ウにあてはまる数字や語句を書け。
- (2) 年表中 A の戦いで平氏を滅亡に追い込んだ、源氏の若い大将の名を書け。
- (3) 年表中の B に関して、奥州藤原氏の繁栄を今に伝える中尊寺金色堂がある、奥州藤原氏の本拠地となった町の名を書け。

年代	おもなできごと
1180 年	源氏の挙兵 一ノ谷の戦い・屋島の戦い
1185 年	
1189 年	(イ)の戦いで平氏滅亡・・・A
(ア)年	奥州藤原氏が滅亡・・・B (ウ)が征夷大將軍に任命される

[解答欄]

(1)ア 1192	イ 壇ノ浦	ウ 源頼朝	(2) 源義経	(3) 平泉
------------------	--------------	--------------	----------------	---------------

[解説]

1180年	源頼朝の挙兵、鎌倉を本拠地
1185年	壇ノ浦の戦い(源義経が平氏を滅ぼす)
1185年	守護・地頭の設置 → 鎌倉幕府の成立
1189年	奥州藤原氏(平泉)を滅ぼす
1192年	源頼朝が征夷大將軍に任命される



源頼朝は鎌倉にいて、弟の源義経らを派遣した。義経は源義仲を倒し、一ノ谷の戦い、屋島の戦いで平家を破り、1185 年、壇ノ浦の戦いで平氏を滅亡させた。(平家の人々は御(1185)難の壇ノ浦)

源頼朝の巨大化を恐れた後白河上皇は、頼朝と義経が不仲になったことにつけこみ、義経に頼朝追討を命じた。これに対して頼朝は軍を京都に送って後白河上皇にせまり、国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を任命する権利を獲得し、鎌倉を本拠地にして幕府を開いた。守護はその国の御家人を統率し重い犯罪の取り締まりにあたった。地頭は年貢の取りたてなどの荘園の管理にあたった。

義経は平泉の奥州藤原氏をたよって逃れた。頼朝は義経をかくまったことを理由に、奥州藤原氏を攻め滅ぼし、これまで独立性の強かった東北地方も支配下においた。

1192 年、源頼朝は朝廷より征夷大將軍に任じられた。(いい国(1192)めだす)。

[問題 2]

次の各問いに答えなさい。

- (1) 壇ノ浦の合戦が行われた場所を地図中の A～E より選びなさい。
- (2) 鎌倉の位置を地図中の A～E より選びなさい。

[解答欄]

(1) E	(2) A
--------------	--------------



[問題 3]

次の各問いに答えなさい。

- (1) 源頼朝が幕府を開いたのはどこですか。
- (2) 源頼朝が、①国ごとに置いた役職と、②荘園や公領ごとに置いた役職を、それぞれ書きなさい。
- (3) 将軍の正式名を書きなさい。

[解答欄]

(1) 鎌倉	(2)①守護	②地頭	(3) 征夷大將軍
--------	--------	-----	-----------

[解説 1]

源頼朝は、1180 年に挙兵した後、鎌倉を根拠地にして指揮をとった。鎌倉は東・北・西の三方を山で囲まれ、南は相模湾に面した天然の要害である。

東・北・西のいずれから鎌倉に入るとしても「鎌倉七口」とよばれる、山を切り開いた狭い通路(切通し)を通らねばならず、**守りやすい土地**であった。

頼朝がここを拠点としたのは、父祖ゆかりの土地であったこととともに、こうした地理的条件による部分が大きかったと思われる。

[解説 2]

[鎌倉幕府の成立]

1185年 守護・地頭の設置

守護:国ごと 地頭:荘園や公領ごと

→ 鎌倉幕府の成立, 鎌倉時代のはじまり

1192年 源頼朝が**征夷大將軍**に任命される

1185 年、源頼朝は、国ごとに**守護**を、荘園や公領ごとに**地頭**を任命する権利を獲得し、**鎌倉**を本拠地にして鎌倉幕府を開いた。守護はその国の御家人を統率し重い犯罪のとりしまりにあたった。

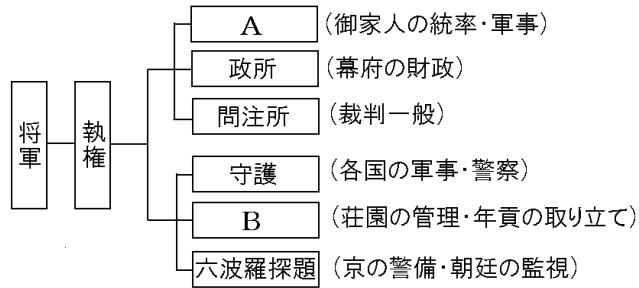
地頭は年貢の取りたてなどの荘園の管理にあたった。

1192 年、源頼朝は朝廷より**征夷大將軍**に任じられた。(いい国(1192)めざす)。

かつては、1192 年に源頼朝が征夷大將軍に任命されたことをもって鎌倉幕府の成立としていたが、現在では、守護・地頭の任命権を獲得した 1185 年を鎌倉幕府成立の時期とする説が有力になっている。

[問題 4]

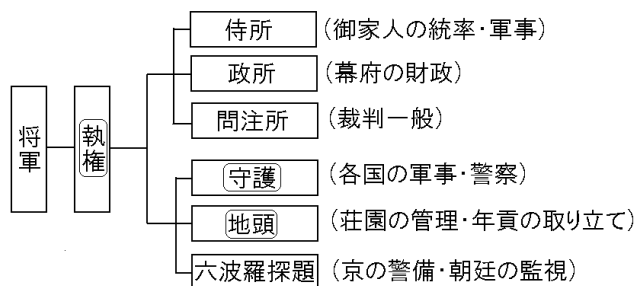
次の鎌倉幕府のしくみで、A、Bにあてはまる役職名を書きなさい。



[解答欄]

A 侍所	B 地頭
------	------

[解説]



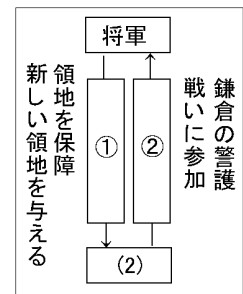
鎌倉幕府の組織は、御家人をまとめ軍事をあつかう侍所、一般政務や財政をあつかう政所、御家人からの訴えを裁く問注所からなっていた。また、国ごとに守護を、荘園や公領ごとに地頭を置いた。執権は将軍を助けて政治をおこなう最高職であるが、これがもうけられたのは源頼朝の死後で、北条氏はその職を独占し、幕府の実権をにぎった。

[問題 5]

次の文を読んで、あとの各問いに答えよ。

鎌倉幕府の初代将軍の()は、彼と主従関係を結んだ武士を統制し、武士による政治のしくみを整えていった。

- (1) 文中()にあてはまる人名を答えよ。
- (2) 下線部について、このような武士は何とよばれたか。
- (3) 右図について、①・②にあてはまる語句を答えよ。
- (4) 右図の関係を中心とした社会制度を何というか。

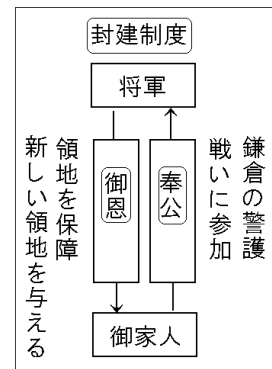


[解答欄]

(1) 源頼朝	(2) 御家人	(3)①御恩	②奉公	(4) 封建制度
---------	---------	--------	-----	----------

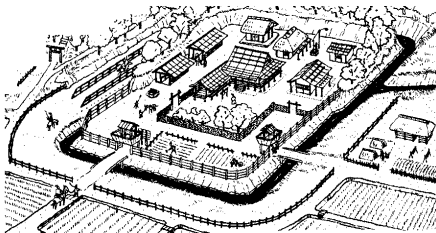
[解説]

御恩の中で一番重要なのは、家来となった武士(御家人)の土地支配を保障したことであった。源頼朝は御家人に対し、おもに地頭に任命することによって、先祖伝来の所領の支配を保証した。国衙や近隣諸勢力との争いに絶えず悩まされていた武士にとって、「一所懸命」という言葉がしばしば用いられたほど大切だった所領の領有を認めてもらうことは、何物にもかえがたい御恩であった。このような御恩に対し、御家人は、平時には、京都や鎌倉の警護にあたる義務を負い、戦時には、命をかけて鎌倉殿のために戦った。これが、奉公である。さらに、鎌倉殿のために、命をかけて戦って てがらをたてたときには、没収した敵の領地を恩賞として与えられたが、これも御恩の 1 つである。このような土地を仲立ちにした主従関係を封建制度という。



[問題 6]

下の資料に描かれている絵の中で、武士の館らしい、敵の攻撃に備えたつくりの特徴を、簡単に説明しなさい。

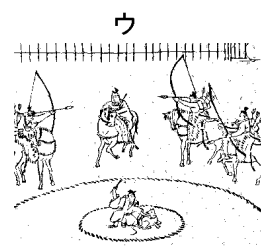
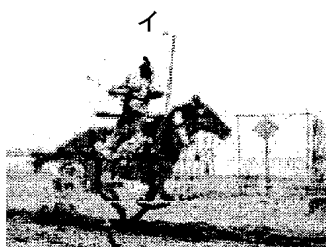
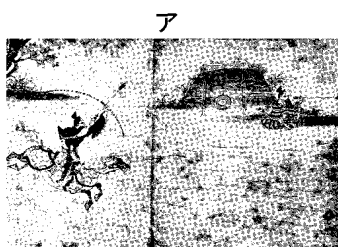


[解答欄]

館のまわりに堀や塀をめぐるせている。

[問題 7]

下の絵は日頃、御家人が行っていた武芸の訓練である。それぞれ何とよばれていたか。
 下の[]から選びなさい。



馬の上からの的にした笠を射る

馬の上から連続した3つの的を射る

走る馬の上から犬を射る

[犬追物 笠懸 流鏑馬]

[解答欄]

ア 笠懸	イ 流鏑馬	ウ 犬追物
------	-------	-------